

2019年7月の行事予定表

| | | | | | |
|----|---|-----------------|----|---|----------------------------------|
| 1 | 月 | | 16 | 火 | |
| 2 | 火 | | 17 | 水 | 聖書の学びと祈り会 |
| 3 | 水 | 聖書の学びと祈り会 | 18 | 木 | 祈禱会 |
| 4 | 木 | 祈禱会 | 19 | 金 | 朝の祈り会 |
| 5 | 金 | 朝の祈り | 20 | 土 | |
| 6 | 土 | | 21 | 日 | 教会学校ワンデースクール合同礼拝、各会の例会日、昼食はソーメン。 |
| 7 | 日 | 総員礼拝式、聖餐式、教会役員会 | 22 | 月 | |
| 8 | 月 | | 23 | 火 | |
| 9 | 火 | | 24 | 水 | 聖書の学びと祈り会 |
| 10 | 水 | 聖書の学びと祈り会 | 25 | 木 | 祈禱会証し会、[教団・委員会] |
| 11 | 木 | 祈禱会 | 26 | 金 | 朝の祈り会 |
| 12 | 金 | 朝の祈り会 | 27 | 土 | |
| 13 | 土 | | 28 | 日 | 礼拝式、各部会 |
| 14 | 日 | 礼拝式、奉仕の日 | 29 | 月 | |
| 15 | 月 | | 30 | 火 | |
| | | | 31 | 水 | 聖書の学びと祈り会 |

7月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 梅雨入りが例年に無く遅い今年の6月ですが、ムシムシとした暑さはやっぱりこの季節ならではの不快感です。どうぞ体調管理にお気を付け下さい。
- ◇ 今月は広島での女性会・水島での壮年会の地区例会レポートとペンテコステ礼拝の様子、そして E.S. 兄のお証しをお届けしました。
- ◇ 7月はいよいよ夏本番の候、皆様が暑さに負けず健やかに信仰生活を過ごせますようお祈りいたします。

教会月報

2019年7月

No.338

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

愛

「たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がなければ、無に等しい。」

新約聖書 I コリント 13 章 2 節の後半

冒頭の御言葉は結婚式に良く用いられる御言葉です。このお言葉は、イエス様が一番語りたかったことであると小生は推測いたします。なぜならば、この言葉の中に「愛」の実態があるのかないのかで全く異なるからであります。

結婚式では男性と女性の独立した人格が互いに選び合い、神の前で誓うのですが、もし愛が無ければ全てが虚しいと聖書は語ります。当然、二人は心から誓い合うのですが、現実には厳しいものがあり、性格の不一致を理由に別れることも統計上、しばしばであります。では、彼らは不真実であったのかと問われるならば、決してそうではないと思います。けれども、實際上二人の間の熱(あくまでも愛とは表現せず)は冷めたと言わなければならないでしょうか？

さて、使徒パウロは信仰者の持つ素晴らしさと共に弱点を指摘しています。すなわち、自他ともに認める完全な信仰を有したとして、もしもその人格が愛を喪失していたらどうなるのでしょうか？

私たちは、有限の中にあります。そして、不完全な中に生きています。さらに言うならば、人生 100 年時代を迎えようとも各自の人生は完成を目指して発展途上というべきでしょう。しかし、イエスの愛を受け、宿し、小さな愛であってもその人でなければできない生き方であれば神に栄光をもたらす事が出来るでしょう。

牧師 永松清

2019年ペンテコステ!



礼拝ではそれまで練習を重ねてきた聖歌隊により賛美も披露されて、参加者一同本当にペンテコステの恵みに感動、感謝の朝でした。来年のペンテコステまで主の恵みがありますように。

6月9日の好天に恵まれた日曜日、今年もペンテコステの朝を迎えました。永松先生より聖霊降臨のみ言葉の解き明かしを伺い、聖餐の恵みにも預かりました。



山陽四国地区連合女性会報告



於: 広島教会

6月18日(火)11時~15時、岡山教会より4名(A師、K姉、K姉、M姉)、全体で25名の集まりでした。(往復はY兄の自動車運転で感謝でした。)

午前の第一部は三浦功牧師による説教「主の共感」(ルカによる福音書7章11~17節)
~神はその民を心にかけてくださった~

神の国において主ご自身が苦しみの中をたどられ、この世へとつかわされ私たちは神の子とされた。主の憐れみによりすべてのことを受け入れてくださり、私たちのいたみ、苦しみ、悲しみのすべてを共にその思いを共感して下さる。母の憐れみは愛するもの家族への思いは同じで、主の思いも一緒である。私たちの出来る事は信仰を持つことにより愛してその道を開いて下さる。主の歩みに共に歩いていくことが大切である。

午後の第二部は「この世と神の国をつなぐもの」~介護と看取り~(コヘレトの言葉7章1~4節)
~死ぬ日は生まれる日にまさる~

お話では、対象は誰か、死生学など20項目ほど。看護される側も看護する方もお互いが信頼関係をもつことにより、心おだやかにその時を迎えられる。関わりをもつことにより家族のきずなが強くなる。その後は、3グループ(ゆり、あじさい、チューリップ)で体験談を語り合うディスカッションでした。

行き帰りの道も守られ無事過ごすことができ、恵まれた一日でした。感謝。(M.M)



山陽四国地区地区連合壮年会例会報告



6月23日の聖日、山陽四国地区壮年会例会へ参加するために倉敷市の水島ナザレン教会に礼拝から参加させて頂きました。

水島教会に初めて訪れた兄弟も含めて計6名も岡山教会から参加させて頂きましたが、手厚い歓迎に本当に感謝でした。

素敵な昼食を頂いた後、地区4教会の壮年会員14名と水島教会の滝本師を合わせた15名参加、水島教会の藤原兄の司会により始まりました。

滝本師の小メッセージ・中央委員の交代の経緯説明などの後、

① 2020年合同全国大会

→来年の合同全国大会への取り組みや地区、各会の温度差が大きい現状について問題提起がなされ、各教会でさらに協議することとなった。

② 地区の壮年会のあり方・会合時の昼食等の費用負担について

→定期例会は来年以降も6月に、また総会は9月の地区聖会時に開催。費用は次年度より参加会員が応分の負担をする。

③ 女性会・青年会・壮年会という区分について

→ジェンダー問題であり、呼び方を既に(〇〇さん)等に変えている教会が紹介され、各教会でそれぞれ検討することとする。

④ 地区壮年会会計報告 等が話されました。

最後に各教会での壮年会の取り組みや活動を紹介して頂きましたが、素晴らしい活動報告に感動しつつ、私達の活動を見直す大きな教えを頂きました。

各教会の壮年会員の方々と9月の総会での再会を約束し、本当に大きな恵みと感謝で一杯になりつつ帰路に着きました。今後も壮年会活動が主の御心に適うものでありますように祈ります。

(K.Y.)

6月伝道礼拝証し E.S.兄



2016年12月25日クリスマスの特別な日に3名一緒に洗礼を受けさせていただき3年目に入りました。洗礼後一番変わったのは、以前は夜寝る前に神様にお祈りを捧げ、内容はお願いする事が多かったですが、洗礼後は朝と夜二回お祈りを捧げ、感謝の言葉に変わっていききました。少し淋しいのは、3名一緒に洗礼を受けたK兄弟と一緒に礼拝を守ることが出来ず心配しています。

私自身、去年、永松先生から役員の後任にとお話がありました。まだ教会に通わせていただき日が浅いので大変迷いましたが、いつかは教会の為に何かお手伝い出来ればと思っていましたので、神様が私に与えて下さった使命と思い決心しました。

役員をお受けして、先輩から色々アドバイスをいただき、「ウエスレーによる一日一章」「一年で聖書を読破する」などを購入し一歩前進しましたが、早く皆さんに近づけるよう少しあせってストレスが溜まってしまいました。考えた末に、自分らしくマイペースで出来る事からゆっくり進んでいこうと思い、少し気分が楽になりました。今、自分の立ち位置を考え、教会員の皆様に喜んでいただける行動をとっていきたくと思っています。

去年の10月に、広島にいる幼稚園より仲の良い友人より電話があり、お母様が8月に急死されたと報告がありました。寂しくなったのか、昔仲の良かった3人と会いたいとの内容でした。4人とも両親を失って、いま考えてみると両親がいなかったら自分と言う存在がなかった訳です。はたして本当に親孝行が出来たのか今でも考える日があります。どうか、ご両親が健在な方は大切にしておいて下さい。

結婚して42年。自分がこうして生活できているのも妻のおかげと感謝し、今以上に大事にしていきたいと思います。

今後は、神様がいつも側にいてくださる「インマヌエル」(聖書マタイ1:23)の言葉を大事にして祈りと恵みを大切に、教会員として歩んでいきたいと思っています。

